

比・台風30号被害

「待ってる人多いはず」

北区 AMDA が募金活動

フィリピンで2400人を超える死者・行方不明者が出ている台風30号の被災者を支援しようと、国際医療救援団体AMDA（北区伊福町3）が15日、北区本町の岡山高島屋前で募金活動をした。メンバーには、台風が直撃したレイテ島に家族が住むフィリピン出身の古谷ミラソンさん（44）＝倉敷市＝の姿もあった。古谷さんが「緊急支援にご協力ください」と呼び掛けると、通行人が次々と足を止めた。

【五十嵐朋子】

出身者も参加「泣いていられない」

AMDAによると、レイテ島は空路や陸路が寸断され、支援物資が十分に行き渡っていないという。

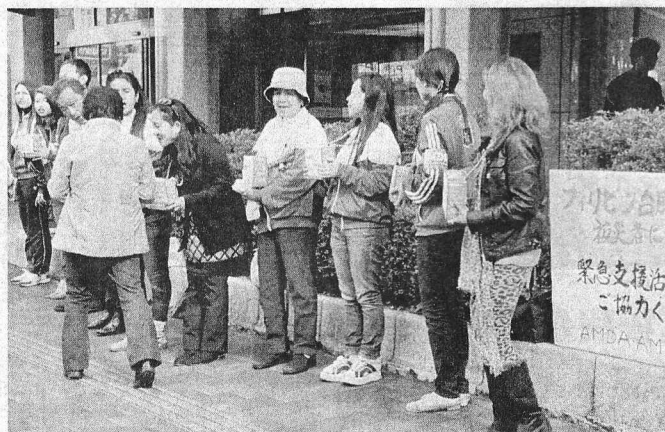
フィピン人のボランティア団体「岡山倉敷フィリピーノサークル」のメンバーも加わった。サークルのメンバー

で、英会話講師の古谷さんの実家は、被害が最も大きかったレイテ島北部の村にあり、弟マークさんが被災し

この日の募金活動にはボランティアスタッフら約30人が参加。通訳などでAMDAの活動に協力する在日フィ

た。台風上陸から5日後の13日に初めてメールがあり、無事が確認できたという。幸い、マークさんにはけがはなく家も無事だった。だが、村では食糧が足りず、停電も続いている。発電機を動かす燃料が不

足し、ろうそくも手に入らないという。村長でもあるマークさんは、がれきの片付



台風30号で大きな被害を受けたフィリピン出身のスタッフが募金を呼び掛けたAMDAの活動
—北区本町の岡山高島屋前で

けや被災者の手助けに奔走している。古谷さんはマークさんにメールを何通も送っているが、停電のためか返信は途絶えているという。

連絡の取れない親類もいるといい、古谷さんは「つらいです。でもここで泣いていられない」

ない」と思い詰めた表情で話した。

「レイテ島は洪水に見舞われることが多いが、台風1に備えている人は多かった。でも、高波が来るとは知らなかった」と現地を思いやり、「日本の支援を待っている人はたくさんいるはずですよ」と話した。

AMDAは10日、現地に最初の支援員を派遣。13日には第2次チームとして別の調整員2人を送った。第3次チームの派遣も予定している。